

海外経済

| | | 2020年2月 | 2020年3月 |
|---------|--------|---|--|
| 世界経済 | | 世界の景気は、全体としては緩やかに回復しているが、そのテンポは鈍化している。先行きについては、当面は回復の鈍さが残るものの、全体としては緩やかに回復していくことが期待される。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響によって景気が下振れするリスクがある。また、通商問題を巡る動向、金融資本市場の変動等によるリスクに留意する必要がある。 | 世界の景気は、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行の影響により、経済活動が抑制されており、足下で急速に減速している。先行きについては、当面、感染症の影響が続くと見込まれ、景気がさらに下振れするリスクがある。また、金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。 |
| アメリカ | | アメリカでは、景気は回復が続いている。先行きについては、回復が続くと見込まれる。ただし、米中間の通商問題を巡る動向及び影響、今後の政策の動向及び影響、金融資本市場の変動の影響等に留意する必要がある。 | アメリカでは、感染症の影響により、経済活動が抑制されており、足下で景気は下押しされている。先行きについては、当面、感染症の影響が続くと見込まれる。また、金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。 |
| アジア地域 | 中国 | 中国では、景気は緩やかな減速が続いている。そうした中で、新型コロナウイルス感染症が経済活動に影響を与えている。先行きについては、緩やかな減速基調が続く中で、当面、新型コロナウイルス感染症の影響による下振れが懸念される。また、米中間の通商問題を巡る動向及び影響、過剰債務問題への対応、金融資本市場の変動の影響等によるリスクに留意する必要がある。 | 中国では、感染症の影響により、経済活動の大幅な縮小が生じており、足下で景気は減速している。先行きについては、感染症の影響が薄らいでいくことが期待されるが、感染症の影響が長期化する場合には、景気がさらに下振れするリスクがある。また、金融資本市場の変動等の影響に留意する必要がある。 |
| | その他アジア | 韓国では、景気は弱い動きとなっている。台湾では、景気は緩やかに回復している。インドネシアでは、景気回復は緩やかになっている。タイでは、景気は弱い動きとなっている。インドでは、景気は弱い動きとなっている。 | その他のアジア諸国・地域においては、感染症の影響により、経済活動が抑制されており、景気が下押しされている。韓国では、足下で景気は弱まっている。台湾では、足下で景気回復は緩やかになっている。インドネシアでは、景気回復は緩やかになっている。タイでは、足下で景気は弱まっている。インドでは、景気は弱い動きとなっている。 |
| ヨーロッパ地域 | ユーロ圏 | ユーロ圏では、景気は弱い回復となっている。ドイツでは、景気は弱含んでいる。先行きについては、弱い回復が続くと見込まれる。ただし、通商問題を巡る動向等の影響に留意する必要がある。 | ユーロ圏では、感染症の影響により、経済活動が抑制されており、足下で景気は弱い動きとなっている。ドイツにおいても、足下で景気は弱い動きとなっている。先行きについては、当面、感染症の影響が続くと見込まれる。また、金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。 |
| | 英国 | 英国では、景気は弱い回復となっている。先行きについては、弱い回復が続くと見込まれる。ただし、EU離脱の影響に留意する必要がある。 | 英国では、感染症の影響により、経済活動が抑制されており、足下で景気は弱い動きとなっている。先行きについては、当面、感染症の影響が続くと見込まれる。また、金融資本市場の変動、EU離脱等の影響を注視する必要がある。 |

(注) 下線部は先月から変更した部分。